

## 事業概況報告

本財団の諸事業は、「調査・研究」「助成・協賛」「普及・啓蒙」の各事業と「審査登録センター」の四部門を柱に展開しています。

### 1. 調査・研究事業の部

#### 1) 研究図書出版

『地球環境研究』の発刊

『地球環境研究』は、調査・研究部門における報告書として発刊を行っています。各環境分野の専門家によって調査研究された結果を取りまとめた本冊子は、学術冊子としても評価を受けています。今期は発刊しておりません。

#### 2) 地球環境総合研究機構

地球環境問題を解決する方向へ一歩でも近づくために、地球環境政策的視点を取り入れた地球環境研究を一層強化することをねらいとして、地球環境総合研究機構 (Framework for the Research of Earth Environment, FREE) として昨年再発足いたしました。同機構は、地球環境問題の実態と保全策を総合的な環境政策的観点から考究することを目的に、土地利用・被覆、都市・農村環境、森林環境及び海洋環境等の総合的地球環境論の研究とともに、それらの問題に共通する環境政策論、環境経済論、環境 RS・GIS 論、さらに環境ビジネス論、環境情報論なども合わせて研究し、これらに基づく地球環境問題に関する総合的環境政策論を考究します。

本研究機構は、『地球環境総合研究所 (Institute for the Study of Earth Environment, ISEE)』、『環境ビジネス研究所 (Institute for the Research of Environmental Business, IREB)』及び『環境情報研究所 (Institute for the Research of Environmental Information, IREI)』の3研究所で構成されています。

地球環境総合研究所 (ISEE) は、今日の地球環境問題を、土地利用・被覆、都市・農村環境、森林環境及び海洋環境といった人間活動に密着する実態から捉えるとともに、それらの保全策に不可欠な環境保全論、環境政策論、環境経済論、環境文化論、環境圏域間分析等を、総合的な環境政策的観点から考究することを研究の課題とします。

環境ビジネス研究所 (IREB) は、環境ビジネス業界に不可欠な環境ビジネス経営、重要環境ビジネス製品の開発などに注目し、社会的実践性の高い研究とともに環境にやさしいエコ・ビジネスに関する提言をも取りまとめていくことを研究の課題とします。

環境情報研究所 (IREI) は、膨大な地球環境情報を如何に収集し、管理・保管する方法、環境情報の検索並びに地球環境保全に役立つ環境情報体系の確立を考究していくとともに、環境 RS・GIS 論 (RS: リモートセンシング、GIS: 地理情報システム) を含め、それらの基礎となる環境情報処理の開発を主たる研究課題として活動を展開します。

#### 【地球環境総合研究所 (ISEE) の活動】

- |              |  |
|--------------|--|
| 2004年 3月 17日 | 第2回地球環境研究会議<br>基調講演「地球温暖化と食糧問題」<br>講師：本間慎氏 (フェリス女学院大学教授) |
| 2004年 7月 08日 | 第3回地球環境研究委員会   |
| 2004年 9月 28日 | 第3回地球環境研究会議<br>基調講演「環境政策について」<br>講師：小林光氏 (環境省 環境管理局长)    |

## 2. 助成・協賛事業の部

自然環境の保全と創造に関連する分野での研究を対象とした「地球環境財団研究奨励金」をはじめとして、自然保護活動への助成・協賛を行いました。

### 1) 地球環境財団研究奨励金

地球規模ならびに地域の自然環境の保全と創造に関連する分野の研究を奨励し、学術の振興および社会の発展に寄与することを目的とした研究奨励金制度も、本年で15回目を迎えました。本奨励金制度は、自然科学のみならず、人文・社会科学に亘る幅広い研究分野を対象とする助成金制度として定着してまいりました。

今回は、112件の応募について、近藤次郎（本財団参与、元日本学術会議会長）審査委員長を中心とする審査委員会、および理事会にて厳正な審査を行った結果、以下の21件に対して研究奨励金を交付する予定です。

#### 第15回地球環境財団研究奨励金の研究題目

- 鈴木 晋一郎（大阪大学大学院理学研究科 教授）  
「酵素を用いる亜酸化窒素定量法の開発」
- 戸田 求（北海道大学 COE 研究員）  
「高CO<sub>2</sub>が森林生態系に及ぼす影響のシミュレーション研究」
- 長岐 正彦（弘前大学理工学部 助教授）  
「酵素を利用した環境に優しい総合防除素材（害虫フェロモン剤）の合成」
- 吉田 昌弘（鹿児島大学工学部 助手）  
「土壌改良を目指した有用微生物内包マイクロカプセルの創製とその環境保全型農業への利用」
- 松岡 憲司（龍谷大学経済学部 教授）  
「わが国戦前・戦後期の風力発電機開発における技術革新能力形成要因」
- 田中 靖浩（山梨大学大学院医学工学総合研究部 助手）  
「軽油の超深度脱硫システムに適用できる新規脱硫微生物の検索」
- 荻田 信二郎（富山県立大学工学部 助手）  
「竹植物の持続的開発を目指した地域連携基盤の整備」
- 橋本 淳（津山工業高等専門学校機械工学科 助手）  
「混合気組成を制御した低温度希薄水素予混合火炎の火炎構造に関する研究」
- 大原 雅（北海道大学大学院地球環境科学研究科 教授）  
「林床植物集団の遺伝的多様性に及ぼす森林孤立化の影響の定量的評価と保全」
- 小茂鳥 潤（慶應義塾大学理工学部 助教授）  
「地球環境保護のためのフジツボ付着防止表面の創製」
- 鈴木 正男（立教大学社会学部 教授）  
「黒曜石を環境情報記録媒体とした生態学的災害イースター島モデルの精緻化に関する

研究-黒曜石製石器の使用痕の分析」

- 浴 俊彦（豊橋技術科学大学工学部 助教授）  
「線虫個体寿命の短縮を指標とする新規環境インパクト評価法の創出」
- 赤坂 甲治（東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所 所長）  
「東京湾・相模湾生物データベースの構築と環境指標生物の制定-市民主導型地球環境保全運動への展開-」
- 山本 泰（岡山大学大学院自然科学研究科 教授）  
「基礎植物学に根ざした新しい植物環境教育の開発と展開」
- 櫻井 一宏（（財）シップ・アンド・オーシャン財団 海洋政策研究所研究員）  
「バイオマスエネルギー技術政策の評価」
- 丑丸 敬史（静岡大学理学部 講師）  
「富士山麓のブナ林保護に向けての基礎研究」
- 立石 貴浩（岩手大学農学部 助教授）  
「高等菌類の機能を利用した家畜ふん尿処理のためのバイオリアクティングシステムの構築」
- 平野 雄（北九州市立大学大学院国際環境工学研究科 教授）  
「土壌環境を土壌生物の酸化的 DNA 損傷のレベルにより評価する」
- 青柳 秀紀（筑波大学大学院生命環境科学研究科 助教授）  
「コケ培養細胞を用いた大気環境の迅速かつ定量的な評価法の開発とその利用-生物指標の利用性の拡大を目指して-」
- 篠崎 美貴（緑の文明学会 会員）  
「森林の公益的機能評価」
- 加藤 正彦（（株）西日本科学技術研究所 環境システム研究室研究員）  
「焼畑をいかした森林再生に関する実証的研究」

2) 信州緑を守り育てる会

200,000 円

信州緑を守り育てる会（長野市南俣 2351-22、青木猛会長）は、森林自然観察会や植林まつり、講演会、映写会などを通じて、信州の森林資源を保護・育成している団体です。今年度も、ヤマザクラの補植や秋の観察会などが開催され、会の機関紙である「信州みどりの通信」も発行されました。こうした環境保全団体に対しても、本財団ではその活動を応援するための助成事業を行っています。

また、全国で植樹募金を実施し、より多くの方々のご厚志を森林保護のために活用させていただいております。

### 3. 普及・啓蒙事業の部

#### 1) 催し物・イベント

##### 「エコライフ・フェア 2004」

開催：平成 16 年 6 月 5 日～6 月 6 日

会場：都立代々木公園ケヤキ並木ほか

毎年、環境の日（6 月 5 日）を含む 6 月を環境月間として、事業者や国民に広く環境保全についての関心と理解を深め、積極的に環境保全活動を行う意欲を高めるため、様々な行事が実施されています。その主たる行事の一つとして、「エコライフ・フェア」が環境省、東京都、渋谷区、関係法人、業界団体、企業、民間団体の連携の下、1990 年以來開催されてきました。

「エコライフ・フェア」は、各分野での環境保全への取り組みや環境を守るために私たちが知りたいこと・実践できることについて紹介するものです。

今回は、会場内に「環のくらしテーマゾーン」を設け、環境にやさしい商品の展示、環のくらしの PR、エコツーリズムの魅力や楽しみ方などを紹介しました。また、特設ステージでは、トークと音楽のプログラムを楽しんでいただき、小池百合子環境大臣も出演しました。

#### 食養士・管理食養士養成講座

##### (1) 食養士養成講座

食の本来の目的は、食で身体と精神の健康をはかり、活力ある生命の営みを維持することにあります。正しい食の普及のために、東洋医学や食養と栄養の歴史を学び、「医食同源」に基づく食の本質を知るための本通信教育講座は、特定非営利活動法人全日本健康自然食品協会の協力をいただき第 6 回の開催となりました。

この講座では、食養学、人間栄養学、代替医学、農薬、食品添加物、産地や原材料、生産加工、流通等、食を取り巻く循環過程や環境問題を広く学ぶことにより、食の質的向上のための実践的手法を解説しています。規程の全科目を修得し、地域の健康づくり、食環境づくりのリーダーとして広く人々の健康維持に貢献することのできる能力と資格を持つ人材を食養士とするものです。

本年度はスクーリングを含めて 93 名が受講され、77 名に食養士の認定書が発行されております。

##### (2) 管理食養士養成講座

食養士養成講座の上級コースとして、開講された本通信教育講座は、食養士養成講座同様、特定非営利活動法人全日本健康自然食品協会の協力をいただき、より高度な知識と理論をもつ専門職としての資格を持つものです。

この講座は、食や健康に関する知識を習得していることを前提とし、食養士・栄養士・医師・薬剤師などの資格保持者を対象に、食養史・代替医学、ミネラル栄養学、病態栄養学、薬草・薬膳論、自然医学論、自然食品マーケティング論、環境管理・監査論等、専門研究科目を修得し、食材だけでなく環境や健康までも視野に入れた食のスペシャリストを育成し、豊かな食文化の創造と国民の健康づくりへの貢献を目指すものです。

第 3 回管理食養士講座は 41 名の受講生のうち 28 名が管理食養士として認定されております。

##### 「地球と私のためのエコスタイルフェア-エコプロダクツ 2003 [第 5 回]」

開催：平成 15 年 12 月 11 日～12 月 13 日

会場：東京ビッグサイト「東展示場」

これまでの大量生産・消費社会から循環型社会へと転換するために、エコプロダクツは重要な役

割を果たすものとして注目されており、この展示会は、地球環境に与える影響を少なくした製品・サービス＝エコプロダクツを紹介するものです。今回は、NGO、NPO、大学、企業、自治体の取り組みの紹介など 400 を超える企業や団体が出展。一般消費材から産業消費材までのあらゆるエコプロダクツが紹介され、当財団もブースを設けて環境問題への取り組みを積極的に発信しました。

主催：新エネルギー・産業技術総合開発機構、(社)産業環境管理協会、日本経済新聞社

## 環境フォーラム

開催：平成 16 年 3 月 1 日

会場：ホテルニューオータニ「麗の間」

レスター・ブラウン氏が創設し、年次刊行物『地球白書』で知られるワシントンのワールドウォッチ研究所のクリストファー・フレイヴィン所長が来日され、それを記念して講演会が開催されました。

環境省地球環境局地球温暖化対策課の清水康弘課長の「我が国の温暖化防止対策」と題した講演が行われ、次いでクリストファー・フレイヴィン氏から「EU 諸国の CO<sub>2</sub> 削減への取り組み」と題して講演がありました。

フレイヴィン氏は「業界は社会に対する責任感というものがない。社会全体が感じている気候変動ということに対する懸念に対し、企業として対応しなければならないのに、その情熱が実際には欠けている。企業が生まれ変わらなければならないが、しかし企業は理解していない。化石燃料の最大産出国、産油国が京都議定書に反対しているわけであり、アメリカは世界最大の化石燃料産出国として反対している。オーストラリア、ロシアも反対している。これでは京都議定書は何の実効的な効果も生み出さないことになる。今後、我々は、この問題の深刻さを訴え、対応を具体化していく考えだ。関連して脱化石燃料化の方向を早め、代替エネルギーの利用で実質的に CO<sub>2</sub> の削減を図ることも必要と考えている」と述べられました。

主催：環境文化創造研究所、日経 BP 社、同環境経営フォーラム、(財)地球環境財団

## シンポジウム「自然エネルギー拡大の政策と税制」

開催：平成 16 年 6 月 1 日

会場：日本出版クラブ「鳳凰の間」

環境月間にともない、アースポリシー研究所のレスター・ブラウン所長をお迎えし、自然エネルギーを拡大していくための具体的な政策と税制に焦点を当てて議論を展開しました。

「脱温暖化社会をめざして」と題したレスター・ブラウン氏の基調講演のあと、パネリストに佐和隆光氏(環境経済・政策学会会長)、谷口正次氏(太平洋セメント株式会社顧問)、平田仁子氏(気候ネットワーク)、レスター・ブラウン氏、コーディネータは松下和夫氏(京都大学大学院地球環境学学術教授)がそれぞれつとめ、熱い議論がなされました。

後援：環境経済・政策学会

### 【後援・協賛名義】

- ・ 「ナチュラル E X P O 2003」後援

特定非営利活動法人全日本健康自然  
食品協会主催

平成 15 年 10 月 9 日～10 月 11 日

- ・ 「国際ベジタリアン・セミナー2003」後援

三育フーズ(株)/セブンスデー・アド

- ベンチスト(SDA)教会健康部主催  
平成 15 年 11 月 2 日～11 月 3 日

・ 「レスター・ブラウン氏特別講演「地球と人類を救うプラン B」」後援  
千葉大学環境 NPO サークル Sun&Co.  
主催  
平成 15 年 11 月 14 日
- ・ 「ウェステック 2003」協賛  
ウェステック実行委員会主催  
平成 15 年 11 月 25 日～11 月 28 日
- ・ 「2004 年版 環境教育カレンダー」後援  
特定非営利活動法人国際環境教育機構主催
- ・ 「素敵で快適な暮らしフェア」特別協賛  
株式会社ウエスト主催  
平成 16 年 3 月 4 日～3 月 9 日  
平成 16 年 3 月 18 日～23 日
- ・ 「NPO 法人日本ニーム協会 3 周年記念講演会」後援  
NPO 法人日本ニーム協会主催  
平成 16 年 3 月 25 日
- ・ 「アジアユーリンヘルスネットワーク」後援  
アジアユーリンヘルスネットワーク  
大会実行委員会主催  
平成 16 年 5 月 20 日～5 月 21 日
- ・ 「建物緑化推進フォーラム」後援  
雨水利用と緑化を進める会主催  
平成 16 年 6 月 13 日
- ・ 「エコ・グリーンテック 2004」協賛  
エコ・グリーンテック実行委員会主催  
平成 16 年 5 月 26 日～5 月 28 日
- ・ 「環境学習旅行」セミナー」後援  
財団法人全国修学旅行研究協会主催  
平成 16 年 8 月 19 日～8 月 21 日
- ・ 「ナチュラル E X P O 2004」後援  
特定非営利活動法人全日本健康自然  
食品協会主催  
平成 16 年 9 月 21 日～9 月 23 日

## 2) 啓蒙図書出版

毎月1回発行される機関誌「Earthian(アーシアン)」は、グローバルな地球環境問題をはじめ、企業やNGOのリサイクルへの取組、地域での自然保護活動など様々な角度から環境問題を取り上げています。

### 機関誌「Earthian(アーシアン)」の主な内容

- ◇ 平成 15 年 11 月号 (通巻 215 号)  
インバース・グロース社会への戦略  
森林の消失
- ◇ 平成 15 年 12 月号 (通巻 216 号)  
「空中征服」にみる求道者のエコロジー  
「シャボン玉：地球君」の言い分
- ◇ 平成 16 年 1 月号 (通巻 217 号)  
環境活動評価の基本的ビジョン  
海洋汚染
- ◇ 平成 16 年 2 月号 (通巻 218 号)  
環境活動評価の基本的ビジョン (2)  
有害廃棄物の越境移動
- ◇ 平成 16 年 3 月号 (通巻 219 号)  
環境活動評価の基本的ビジョン (3)  
生物多様性
- ◇ 平成 16 年 4 月号 (通巻 220 号)  
環境活動評価の基本的ビジョン (4)  
「シャボン玉：地球君」の言い分-共通型地球環境問題-  
持続的人間社会建設の鍵を握るバイオマス利用
- ◇ 平成 16 年 5 月号 (通巻 221 号)  
環境活動評価の基本的ビジョン (5)  
リオ・デ・ジャネイロ 地球サミット  
バイオマス資源循環型社会実現の課題とプロセス
- ◇ 平成 16 年 6 月号 (通巻 222 号)  
環境活動評価の基本的ビジョン (6)  
ヨハネスブルク 地球サミット  
地球温暖化と食料問題 (1)
- ◇ 平成 16 年 7 月号 (通巻 223 号)  
環境活動評価の基本的ビジョン (7)  
地球環境研究  
地球温暖化と食料問題 (2)
- ◇ 平成 16 年 8 月号 (通巻 224 号)  
環境活動評価の基本的ビジョン (8)  
「シャボン玉：地球君」の言い分-地球環境問題の解決へ向けて-  
リスクコミュニケーションをもとにした環境学習プロセスのデザイン (1)

- ◇ 平成 16 年 9 月号 (通巻 225 号)  
21 世紀と地球環境保全  
リスクコミュニケーションをもとにした環境学習プロセスのデザイン (2)
- ◇ 平成 16 年 10 月号 (通巻 226 号)  
「シャボン玉：地球君」の言い分-地球環境問題の複雑さ-  
環境ホルモン - とくに、ダイオキシンの環境汚染について

### 3) 普及・啓蒙活動

#### 環境対策推進委員会

94 年に設置された本委員会は、地域での環境保全に取り組むボランティアの人々を応援することを目的として組織されています。門馬義芳委員長（本財団理事、日本ライフ(株)取締役社長）を中心に、情報交換などを行ってきました。

委員の方々が取り組んでいる問題には、リサイクルの推進や水質浄化など様々ですが、地域での活動においての問題点や改善すべきポイントなど、活発な意見交換の場として今後も運営してまいります。

#### 環境ビデオの貸し出し

環境問題の理解をより広く促すため、「エコライフ・フェア」で上映された環境啓蒙用ビデオの貸し出しを行い、各種講習会や勉強会で活用されております。現在貸し出されている環境ビデオのタイトルは以下の通りです。

- 「地球環境はいま...」(平成 3 年度)
- 「エコライフをめざして」(平成 4 年度)
- 「みんなで守ろう！地球環境」(平成 5 年度)
- 「地球となかよくつきあおう」(平成 6 年度)
- 「守ろう！みんなの地球 みんなの力で」(平成 7 年度)
- 「環境先進国ドイツの取り組み」(平成 8 年度)
- 「あなたが止める 地球温暖化」(平成 9 年度)

#### 環境プランナー認定業務

環境プランナーを養成する機関の認定業務を行っております。



## 5. その他

### 1) 「ちきゅう信託」「かんきょう信託」「社会貢献信託」の取り扱い状況

平成3年度からスタートした三菱信託銀行「ちきゅう信託」、みずほ信託銀行「かんきょう信託」、中央三井信託銀行「社会貢献信託」の取り扱い状況は、預託者の方々の支えにより、下記の金額を維持しております。

これらの信託は、預託された元本から発生する収益金が自動的に本財団に寄附され、2年後ないし5年後の満期日には元本が預託者へと返還される仕組みとなっています。

平成16年9月30日現在の各信託銀行の残高は次の通りです。

三菱信託銀行 「ちきゅう信託」	136,174,873 円
みずほ信託銀行 「かんきょう信託」	3,300,000 円
中央三井信託銀行 「社会貢献信託」	11,742,800 円
3行合計	151,217,673 円

### 2) 寄付金

地球環境の保全および保護を目指す本団体の活動に対して、当期も多くの方々から寄付金が寄せられました。

#### 第18期寄付者一覧(平成15年10月～平成16年9月)

団体名・氏名	金額
日本信販(株)	803,674
(株)コーセー	529,369
植樹募金寄付者	176,587
三菱信託銀行「ちきゅう信託」加入者	30,389
小林慶博	30,000
みずほ信託銀行「かんきょう信託」加入者	3,215
中央三井信託銀行「社会貢献信託」加入者	3,037
合計(円)	1,576,271